KBI NEWS

CROSS SPIRIT MISSION
関西聖書学院
〒630-0266 奈良県生駒市門前町 22-1
TEL:0743-70-8600 FAX:0743-70-8601
編集・発行人：髙橋 めぐみ
E-mail：kbi-mark117@ares.eonet.ne.jp
HP：https://www.kbiwave.com
郵便振替：001140-6-67708
銀行：尼崎信用金庫上ケ原支店 普通 0015453

「実存」ということ

関西聖書学院　元学院長
故　髙橋昭市　師

「生きること」を突き詰めていくとき、いわゆる「実存」という事に突き当たる。この「実存」という事について、いくつかの場合を見ていきたい。

「浄土真宗の信者」の場合：

あるとき浄土真宗の一人の信者が次のように語ったのを覚えている。自分が今生きている、そのありさまは、前も、下も、周りも真っ暗の中に放り出されている孤独な姿だ。「誰か助けてくれ！」と叫んでいる。どこからも応答なし。絶望が続く。そのとき、上のほうから、するすると一本の綱が降りてきて、「この綱につかまれ」と声が聞こえてきた。そこで、自分は必死の思いで、その綱に掴まった。

（その声の主は誰なのか、その綱は果たして安全なのか？と聞かれてもそれらを検討する余裕などはない。自分にできる選択はただ一つ。目の前のことだけ。この場でいろいろな議論をする人は、「実存」の厳しさが分かっていない。目の前の綱にすがりついている、この有様は一切の干渉を受け付けない「絶対のありさま」なのだ。）

「禅宗の僧侶」の場合：

「伝灯録」・「百尺竿頭須進歩 十方世界是全身」この禅語は有名で、とくに初めの百尺竿頭の語は広く一般にも用いられているようである。

「生きること」を突き詰めていくと、その生きている姿は、たとえば、百尺の竿頭に懸命にすがり付いている姿だ。どうしようもない姿だ。そこへ、一人の先輩がやってきて助言を与える。「勇猛心をふるい起こせ。竿頭から手を離して、前進せよ。安心せよ、奈落に落ちてゆくことはない。」

すがり付いていた僧侶は、先輩の助言を信じて、竿頭から手を離し虚空へ身を躍らせた。助言のごとく、奈落に落ちてゆくことなく、「十方世界是全身」を経験した。

「実存主義の哲学者」の場合：

「百尺竿頭」の経験とよく似ているようである。実存主義の哲学者は、「経験した」という表現のなかに、あの「虚空に身を躍らせた経験」の意味を籠める。この「経験」は、単なる頭の中の理解ではなく、「大変な経験」なのである。「経験した人」と「経験しない人」との間には理解できない断絶ができてしまう。

「キリスト信者」の場合：

「御子を信じる者は永遠のいのちを持つ」という聖書のことばに要約されているが、上のほうから信ぜよという言葉が聞こえてきて、すがりつく相手は、聖書に表されているイエス・キリストである。この場合、「信じる」ということには、水の洗礼を受けるべきことが、「傍証」のように勧められている。つまり、口だけの「信仰」ではなく、全身参加の信仰なのだ。「信じた人」と「信じない人」との間には、理解できない断絶ができてしまう。

以上、「実存」の四例を見てきたが、四例に共通していることは、それぞれの「実存」の領域に入った人は、「共通の場」で話し合う状態にはない、と言えるのではないか。それぞれの領域には、それぞれの言語体系がある。この断絶にどう対処するのか、そのことも「実存の課題」であろう。

もう一つの課題がある。上記のようなカテゴリに入らない人々のことである。広い道を多くの人たちと同じように歩いてゆく。「安心」の根拠は、「広い道を多くの人たちが同じように歩いている」ことにある。ここに働く「信頼」は信仰とは呼ばないが、「生きること」は厳しい実存であることを考えると、その「信頼」は、「虚空に身を委ねる」一つの信仰である、と言うべきであろう。

※髙橋昭市師は十月十五日に急性心不全で召天されました。九十五歳でした。髙橋師の書斎に残された原稿の中より追悼記事として掲載させていただきました。

宣教Week

2023.6.14-18

渡った先の島には…

三年　泉田　真理

私たちのチームは宣教ウィークが始まる前に、どこへ行って何をしようかと、心を合わせて祈りました。自分たちは何ができるのか、どうやって福音を伝えることができるのかをメンバーと考え祈っていました。祈りの中で「どこかの島に行きたい」という思いが与えられ、岡山県の「頭島」に行くことに決めました。私たちは、ただ福音だけを持っていこうと教会の案内のチラシを作成してそれを持っていきました。

頭島には二日間滞在しましたが、初日の下見では人の気配があまりせず、本当に人に会えるのだろうか？と不安がありました。翌日、頭島へ到着してチームみんなで祈って、ただ神様が導いてくださるように願いながら、二チームに分かれてチラシをポスティングしながら島を周っていました。すると、すぐに分かれたもう一つのチームから「今、家の前でお茶を出してもらっているから来て！」と連絡が入り、行ってみると、夫婦とそのお友達の三人とチームメンバーが玄関先のお庭でお茶をしていました。私たちもそこに加わり、午前中たくさんの時間を共に過ごすことができました。

私たちが訪問する数日前にエホバの証人の人々が来られたそうで、最初はチームメンバーも警戒されていたそうですが、エホバの証人ではないとわかり、招いて頂けたと後から教えてもらいました。イエス様を伝える難しさと、神様が出会いを備えてくださっているという体験をさせて頂き、感謝でした。

畑での収穫

二年　岡本　真知子

私たちのチームは、大阪・兵庫方面で活動しました。出発する前の祈祷会で、あるイメージがチームに与えられていました。それは、色づいた畑で私達が農具を手にして、刈り取りを待っているというものでした。なんと、まさにその通りのことが実現しました。二日目に、メンバーの友人で農業をされている方と畑でお会いして、福音をお伝えしました。また、彼の前で「君は愛されるために生まれた」を賛美し、祝福を祈りました。その日はそれで終わりましたが、その後彼のために祈っていると、主からの語りかけと、

「わたしの言葉を聞いて、わたしをお遣わしになった方を信じる者は、永遠の命を得、また、裁かれることなく、死から命へと移っている。はっきり言っておく。死んだ者が神の子の声を聞く時が来る。今やその時である。その声を聞いた者は生きる。」

ヨハネの福音書五章二十四～二十五節という御言葉を受け取ったので、最終日にもう一度彼を訪問することにしました。

私達が再び彼の畑へと行ってみると、彼はそこで作業をしていました。私たちは、彼と出会えたことを主に感謝してから、彼に話しかけました。そして、与えられた御言葉を伝え、私たち一人一人の証しをしました。すると、彼はイエス様を受け入れ、ともに信仰告白のお祈りをすることができました。

ハレルヤ！

宣教ウィークの証し

一年　花岡　愛喜

私にとって今回が初めての宣教ウィークでしたが、この期間を通して、魂の救いに対する飢え渇きを覚えました。私たちは主の導きで、私の母教会である「宮崎クリスチャンコミュニティ」を拠点に様々な宣教活動を行いました。宮崎では図らずも、中学時代の担任の先生や英語講師時代の生徒と再会し、献身の証しをすることができました。また、カフェ伝道では、私たちの予想を超えて、約四十名（十名程が未信者）の来客があり、また、未信者の方の必要のために祈ったり、福音を語る機会も与えられました。他にも多くの証しがありますが、文章ではお伝えしきれません。

そのような中、私は「キリストの体」の素晴らしさを教えられました。私は宣教ウィークのメンバーが決まった時、「このチームには何ができるのだろう。」と考えました。しかし、宮崎での宣教中、「コーヒーを淹れる賜物」「使命を持ってチラシを配る賜物」「美味しい料理を作る賜物」「喜びを持って事務的作業をする賜物」など、主がメンバーに与えられた賜物がカフェ伝道通して発揮されました。さらに、このカフェ伝道を見た、母教会の牧師は「昔、カフェ伝道をしたいと主に祈っていた」と感動されていました。宣教ウィークの期間中、チームに御霊の一致が与えられ、お互いを励ましながら、宣教することができました。主が宣教のために「キリストの体」の一部として私たちを大いに用いくださることを体験しました。

私たちは祝福を受け、流す者である

二年　津地　ひかり

世界一〇五カ国で広く実践されている五日間の宣教チャレンジコース「カイロス」を二年生が受講しました。宣教の最前線である未伝部族への到達を具体的に学ぶとともに、世界最大の未伝部族である日本での宣教戦略について考えさせられ、私自身の宣教に対する思いが新たにされました。

今回私が受け取ったことを一言で表すと、「私は祝福を受け、流す者である」と言うことです。創世記十二章一節～三節で、神様は「…わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。…地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」と言われています。旧約の時代から現在まで、私たちに対する主の思いは継続しており、私たちは主の民であり、祝福を受ける存在とされています。そして、私たちを通して地のすべての人が祝福を受ける者となることを知りました。

今回の学びでは「動員する働き」に一番心が動かされました。クリスチャンには、「全人類を救いたい」という神様の思いに合わされ、自分自身が「祝福を受けるだけでなく、祝福を流す者である」という視点が必要だと思わされました。

そして、この視点を伝える存在として、どんな時も神様視点に立ち、祝福を受け、全ての人へ祝福を流す者でありたいです。

『世界宣教フェローシップ集会』に参加して

二年　ヤコブ　スリウィチャヒョ

この集会には、ルーマニアやインドネシア、イギリスなどからゲストの方々が来て下さり、世界各地で行われている宣教について、いろいろなお話をして下さいました。また、日本からモンゴルへ宣教に行かれている先生のお話も聞く事が出来ました。みんな初めてお会いする方々で国籍も違いますが、同じ神の愛によって結び合わされた神の家族なんだなぁと強く感じました。

そして、世界各地で行われている、その宣教の働きを知れば知るほど、全ての国々を治め支配しておられるのは、イエス・キリストである事が改めてハッキリと分かりました。

それぞれゲストの方々の宣教の働きについてお話を聞きましたが、そこには私たちの想像をはるかに超えた、困難もありました。しかし、その宣教がすべて主の偉大なご計画の中にあり、聖霊様の助けがいつもそこにあるので、その働きが絶えず前進しているのだと感じました。

ある先生が、「宣教は教会の窓である」と言いました。宣教を通して、私たちは神さまのビジョンを見る事ができるからです。

この集会の中で、福音が私たちを前に押し出し、宣教の働きの中に入れて下さっている事を実感しました。そして、イエス様が始められたこの宣教の働きを、私たちがそれぞれ遣わされた地で受け継いでいる事を改めて確信し、その神のミッションの流れの中に入れられている事に喜びと感謝が溢れてきました。

私ではなく主が

三年　田口　佳奈

九月十九日から九月二十二日までの四日間、七年に一度の日本伝道会議にKBI三年生がボランティアとして参加しました。会場は岐阜県の長良川国際会議場で、約千五百人の方が参加した大会でした。

当日依頼される奉仕が多く、KBIでの日々の訓練を実践する期間でした。他校の神学生も多く参加しており、神様が神学生同士の交わりの場を用意してくださいました。三日目には、神学生交流会の時間がもたれ、グループに分かれ、救いの証しや自分たちの召し、ビジョンについて分かち合い、祈り合いました。一人ひとりが経験してきた神様の素晴らしい証しは、私たちに励ましや喜びを与えるものでした。

また、大阪聖書学院の岸本先生が「私たちは同労者、敵ではなく仲間です。」と話してくださり、その言葉に私の思いが合わされました。他校の神学生との交流を避けていた私でしたが、主に思いを委ねて交わっていきたいという思いに変えられたのです。

同じ神様を信じ、福音に仕え、共に祈り合える同労者が与えられていることに感謝します。今回伝道会議に参加するにあたり、宿泊場所を提供してくださった岐阜純福音教会の皆さまと、その環境を与えてくださった主に感謝します。主に栄光がありますように。

「私たちは神のために働く同労者であり、あなたがたは神の畑、神の建物です。」コリント人への手紙第一 三章九節

生駒の地域伝道　～ハイコンテキスト文化に入り込む伝道～

三年　大原　智基

私は日頃から「草刈りでどのように神様の栄光が現れるのだろうか」と考え、「教会や学院が綺麗であることが大事だから」という理由をつけて自分を納得させていました。

KBIの近所に住むSさんが手術を受けたという話を聞き、会いに行きました。そして作業の時間に草刈りのお手伝いをすることになりました。毎週の作業の合間に証しをし、最後にはSさんと一緒に祈ることができています。

また、草刈りが信頼へと繋がり、奉仕を通して地域との関わりも増えていきました。今では、KBIでカフェやバザーを開くと地域の方々がたくさん来られ、交わる時間も与えられています。他にも、地域のお祭りでゴスペルを歌うことができたり、「教会に行ってみたい」と言ってもらえるようになりました。

私は、日本は超ハイコンテクスト文化国家であり、共有されている前提条件が非常に多い国だと思います。暗黙の了解や忖度、空気を読むなど、多くの人が非言語で理解していることが非常に多いのです。日本人の中で、教会の文化は共有されている前提条件ではないと思います。ですから、福音というプレゼントを持っている私たちが、「それを取りに来てください」というのは日本の国民性に合わないと思います。時間と労力はかかりますが、それ以上に神様はご自身の栄光を持って私たちを励ましてくださいます！

『最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。』マタイの福音書 二十五章三十四節

一年生リトリートを受けて

一年　加藤　優樹

スピリチュアル・フォーメーションの授業の中でリトリートがありました。同級生が楽しみにしている中、私は前向きにはなれませんでした。それは、祈りの中で主の声を聞くということに苦手意識があったからです。同授業では、静まって主の御声を聞き、教えられたことを書き出す「祈りのレポート」という課題があります。私はその課題が大嫌いでしたが、リトリートではそれが一日続くのです。祈り始めても主の声は聞こえませんでした。ついにイライラし始め、「他の人たちはこんなことを語られたと言っているのに、なぜ僕にはわからないのですか。こんなに求めているじゃないですか！語ってくださいよ！」と神様に訴えました。そんな中、リトリートで渡された祈りのガイドに沿ってイザヤ書三十章十五～二十一節を読みました。特に十九節の「あなたの叫ぶ声に応え、主は必ず恵みを与え、それを聞くとき、あなたに答えてくださる。」にとても励まされました。神様は私のこの苦しみを知っておられ、私の叫びを聞いてくださっている。そして、それに答えると言ってくださっている。私は御言葉を通して、主の声を聞くことができるということに気付かされました。今も祈りの中で主の声を聞くということはわからないですが、「主は答えてくださる」と書いてあることを信じて求め続けていきたいと思います。

神様から与えられた祝福を流し出す者として

一年　神澤　日子

ＣＳセミナーを通して、今まで持っていた信仰継承のイメージが大きく変えられました。これまでは、信仰継承と聞くとＨｏｗｔｏ（礼拝に行くこと、聖書を読むこと、祈ることなど）を教えて、できるようになったらＯＫというイメージでした。しかしそうではなく、神様を信じることによって与えられた祝福を流していくという〝信仰による祝福の継承〟が大切なのだと教えて頂きました。また、「信仰生活は〝Ｈｏｗｔｏ〟ではなく、まず〝ＷＨＹ〟から始まる。」ということが語られていました。それは、私達が「神様の愛」を知ることから始まり、神様に礼拝したい、従いたいという思いへと変えられていくということでした。

私は中高生時代、ＷＨＹよりもＨｏｗｔｏを重視した信仰生活を過ごしていたことを思い出しました。その頃はできなかったら自分を責めて周りと比べたり、恐れの中にあったことを覚えています。人は弱さゆえに自分自身の力で信仰生活を行おうとしてしまいますが、「神様の愛」にいつも立ち返っていきたいと思いました。

また、今まで与えられてきた神様からの祝福を、飾らないありのままの自分で伝える姿が証しとなることも学びました。回復の途上にある私達を、神様は「祝福を継承する者」として選んでくださったことに感謝し、目の前にいる大切な存在にこの祝福を伝えていきたいです。

ご献金感謝します

献金者名簿（日付順･敬称略）（2023.5.16 ～ 2023.10.25）（KBIへの直接献金分）

■一般会計献金

<KBIを支える会>

個人:安黒務、黄金井尚美、斎藤邦夫、兼松道子、安野清子、石﨑政登、髙橋めぐみ、加賀清孝、秋元清友、井野葉由美、田中憲昭、嶋林泰代、石川秀和、酒井哲男、加藤三千生、川﨑綾子、梶川光・志帆、二口啓一・千里、三坂正治、馬場喜久美、宮腰美喜、森敏・雅子、岡本哲二、鵜野英子、菅沼威、上坂進、安食弘幸、奥本耕史、金森洋三、匿名希望２名

教会＆団体:可児福音教会、旭川神愛キリスト教会、京都シオンの丘キリスト教会、狭山福音教会、八尾南福音教会出戸バイブルチャーチ、浜松汀キリスト教会、奈良福音教会、尾上聖愛教会、カナン･プレイズ･チャーチ、鈴鹿キリスト福音教会、小松島チャペル、岡山チャペル、チャペル犬山、金沢こころチャペル、奈良ブレッシングチャーチ、北九州チャペル、さんだグレイスチャペル、東栄福音キリスト教会、ゴスペルチャーチ千里、東京チャペル、江藤みかを支える会

<運営支援献金>

日本福音教会（JEC）、美濃グレースチャーチ、御殿場純福音キリスト教会、岐阜純福音教会、ベタニヤ・クリスチャン・アッセンブリーズ、保土ヶ谷純福音教会、ジャパン・ベサニー・ミッション

<特別献金>

1. 建設基金献金

個人：春名裕

教会＆団体：秦野クリスチャンセンター

2.「宣教ウィーク」献金

教会＆団体：宮崎コミュニティチャペル

3.「KBIを覚える日」献金

教会＆団体：三輪キリスト教会

4. その他

個人：宮前愛子、リニア・オーベリ、後山慎治、中村範之、豊村泰、イ・スルギロ、森昭、ボウ＆ブリギッタ・アートマーク、宮下真由美、吉田成就、匿名希望１名

教会＆団体：「燃える柴」集会、八木山聖書バプテスト教会、小松ベタニヤ福音教会

■奨学基金献金

個人:竹川正英、長谷川みちる、吉田隆、奥本耕史、芝連代、匿名希望１名

※KBIへの直接献金分のみ記載しています。各団体に献金してくださっている場合、ご要望がない場合教会名でなくその団体名を記載しています。どうぞご了承ください。

2024年度　新入生募集

welcome

本科コース
（1～3年間）

入学金：　50,000円
食　費：196,000円/年
寮　費：224,000円/年
授業料：300,000円/年
応募締め切り
2024年2月末日

短期コース
（3週間）

参加費：80,000円
（授業料・食費・宿泊費）
日　程：2024年4月 9日(火)
～4月27日(土)
応募締め切り
2024年2月末日

教会開拓・刷新コース
CPRC
CHURCH PLANTING & RENEWAL COURSE

登録費：　5,000円
授業料：60,000円(2年間)
1泊2日年8回×2年間(全16回)
原則毎月第三火曜日15:30から
翌日昼食まで

宣教師訓練コース
MTC
MISSIONARY TRAINING COURSE
受講希望者はご連絡ください

通信教育コース
◆本科編入コース
◆生涯学習コース
入学は随時募集しております

CROSS SPIRIT MISSIONS

KBI関西聖書学院
各コースの資料請求は
事務所・HPよりお問い合わせください
HP QRコード
TEL：0743-70-8600 FAX：0743-70-8601
HP：www.kbiwave.com
E-mail：kbi-mark117@ares.eonet.ne.jp

I will make you become fishers of men Mark1:17

●OB・OG通信●

○結婚おめでとうございます

・小池有 師（二〇二一年度卒）
と平嶋祐佳姉（二〇二二年度卒）
二〇二三年七月二十九日

○教会設立のお知らせ

・奈良ブレッシングチャーチ（李 守師）
二〇二三年十月二十九日　設立

○宣教師派遣

・高橋央也 宣教師
二〇二三年八月十三日
ジャカルタ日本語教会 牧師就任

・山中実・早紀子 宣教師
二〇二三年八月六日
インドネシアへ出発

○召天のお知らせ

・北中洋子（旧姓：稲葉）姉
（一九七四年度卒）
二〇二三年九月二十三日　召天

・高橋昭市 師（元KBI学院長）
二〇二三年十月十五日　召天

●祈りの課題●

・来年度も新入生が与えられるように。

・学生たちの霊的成長と今後の導きのために。

・KBI理事・教師の祝福のために。

・二十三年度予算及び固定費の必要が満たされるように。

●編集後記●

今年は例年に比べ、国を超えて様々な方がKBIに来られました。私たちは新しい出会いを通して世界を知り、また宣教の情熱がますます燃やされる一年でした。皆様のお祈りとご支援があるからこそ、日々充実した学びを受けられることを心より感謝いたします。引き続き、学びの様子や成長の過程をお伝えできればと思っております。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

KBIニュース委員一同